

Asia Indicators

発表日: 2022年1月4日(火)

韓国、11月の生産は底打ちも、先行きに不透明感(Asia Weekly(12/27~12/30))

～感染再拡大による行動制限の再強化の動きは先行きに対する不透明感に～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

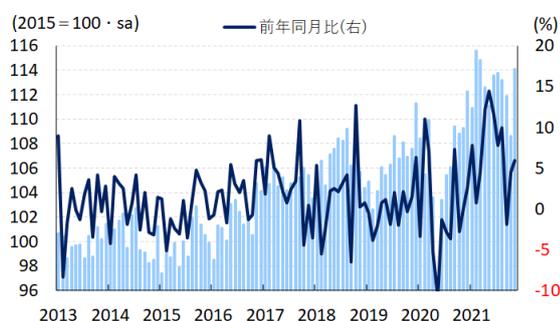
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/28(火)	(マレーシア) 11月輸出(前年比)	+32.4%	+30.0%	+25.5%
	11月輸入(前年比)	+38.0%	+31.0%	+27.9%
	(香港) 11月輸出(前年比)	+25.0%	--	+21.4%
	11月輸入(前年比)	+20.0%	--	+17.7%
12/30(木)	(韓国) 11月鉱工業生産(前年比)	+5.9%	+3.2%	+4.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～輸出財を中心に生産底打ちの動きがみられるも、先行きは感染再拡大に伴う生産調整の影響に懸念～

30日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+5.9%となり、前月(同+4.5%)から伸びが加速した。前月比は+5.06%と前月(同▲2.95%)から4ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちの動きが続いた流れは一転底打ちしている。製造業を中心に生産活動が底入れしており、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連などの生産は引き続き堅調な推移をみせている上、自動車を中心とする輸送用機械関連、金属関連をはじめとする中間財、食料品など幅広い分野で生産が底打ちしており、世界経済の回復の動きを追い風に輸出財を中心に堅調な動きが続いている。平均稼働率も75.1%と前月(71.1%)から4.0ptと大幅に上昇して9ヶ月ぶりの水準となるなど、幅広く生産活動が活発化している様子がうかがえる。ただし、足下では新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染再拡大を受けて行動制限が再強化されており、この動きを反映して生産調整圧力が強まる動きもみられるなど、底入れが期待された流れが一変する可能性はくすぶる。

図1 KR 鉱工業生産の推移

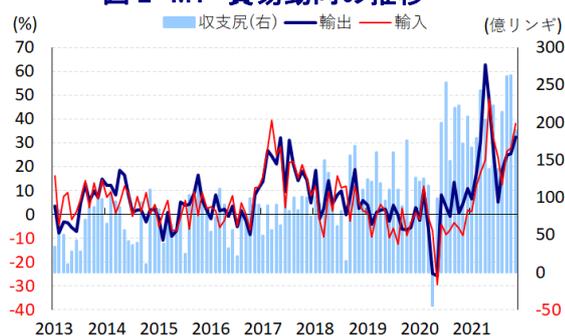


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～世界経済の回復は輸出の底入れを促すなか、行動制限の緩和も重なり輸入も堅調に推移～

28日に発表された11月の輸出額は前年同月比+32.4%となり、前月（同+25.5%）から伸びが加速した。前月比も+7.7%と前月（同▲6.7%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や機械製品関連に堅調な動きがみられるほか、国際商品市況の高止まりを反映して鉱物資源関連の輸出も好調に推移している上、パーム油など農産品関連の輸出も底堅いなど全般的に底入れが進んでいる。国・地域別では、中国向けやASEAN（東南アジア諸国連合）などアジア新興国向けのみならず、米国やEU（欧州連合）、日本など先進国向けなど全般的に堅調な動きがみられるなど、世界経済の回復の動きが追い風になっている。一方の輸入額は前年同月比+38.0%となり、前月（同+27.9%）から伸びが加速した。前月比も+7.0%と前月（同+0.7%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。輸出の堅調さを反映して中間財関連の輸入額が押し上げられているほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服による行動制限の緩和を反映して消費財関連の輸入額も底入れしている上、資本財関連の輸入も堅調に推移するなど全般的に底入れの動きが続いている。結果、貿易収支は+189.01億リンギと前月（+263.00億リンギ）から黒字幅が縮小している。

図2 MY 貿易動向の推移



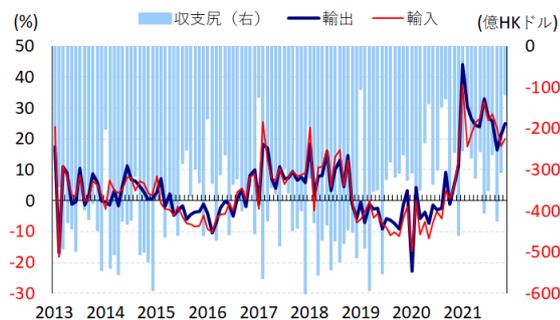
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[香港]～世界経済の回復やアジア新興国での感染一服によるサプライチェーンの回復も輸出入を押し上げ～

28日に発表された11月の輸出額は前年同月比+25.0%となり、前月（同+21.4%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、機械製品や電気機械関連のほか、縫製品関連、金属製品関連など幅広い財で底入れの動きが続いており、世界経済の回復の動きが押し上げに繋がっている。国・地域別でも、中国本土向けやASEAN（東南アジア諸国連合）などのアジア新興国向けのほか、米国やEU（欧州連合）、日本向けなど先進国向けも全般的に堅調な動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+20.0%となり、前月（同+17.7%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。中国本土からの輸出が底堅く推移していることを反映しているほか、ASEANなどアジア新興国における新型コロナウイルスの感染一服を受けたサプライチェーンの回復の動きも輸入を押し上げているとみられる。結果、貿易収支は▲116.06億HKドルと前月（▲304.64億HKドル）から赤

字幅が縮小している。

図3 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。